

■ 特定課題セッションⅡ 報告

「効果的福祉実践モデル構築に果たすプログラム評価の役割」

コーディネータ：大島巖（日本社会事業大学）

こんにち世界的潮流となった科学的根拠に基づくソーシャルワーク実践や福祉実践プログラムを発展させるために、福祉実践家が日々の実践の中での創意・工夫などを蓄積し、実践的努力の積み重ねの中で形成される効果的と考えられる「福祉実践モデル」に対して理論的根拠を与え、科学的根拠を構築するプログラム評価の理論と方法論の活用が求められている。このセッションでは、日本の様々な領域で始まった効果的な実践モデル構築に向けた取り組みに対して、プログラム評価の理論と方法論はどのように貢献できるか、そして、プログラム評価アプローチは、実践研究や、社会福祉学研究全体の中でどのような役割を果たしうるかを会員が共有することをめざした。

各報告者のうち、山野則子会員ほかの「スクールソーシャルワーク実践における評価に関する研究～プログラム理論に基づいて」は、プログラム開発段階にある、いくつかの形態で取り組まれているスクールソーシャルワーク実践プログラムに対して、プログラム理論を活用して、その有用性を確認した。また水上然会員ほか「高齢者虐待防止の取り組みにおける全事例評価(メゾレベル評価)の役割と意義～『市町村における高齢者虐待防止体制を強化するための評価モデル』の導入を通して」は、評価モデルの構築を通して、市町村における高齢者虐待防止における全事例評価の意義と役割を明らかにする報告であった。さらに長沼葉月会員ほか「生活保護世帯の子どもたちへの進学支援を考える～塾代の支援の評価を手掛かりに」は、生活保護の塾代支援プログラムの有効性を検証し、より効果的なプログラムモデル構築をめざした報告であった。最後の道明章乃会員ほか「プログラム理論・エビデンス・実践間の円環的対話による、効果的福祉実践プログラムモデル形成のための評価アプローチ法（CD-TEP法）の開発：CD-TEP法の発展と実践家参画型評価の可能性」は、実践家がプログラム評価に関与・参画し、プログラム理論・エビデンス・実践間の円環的対話を實現するアプローチ法を提示し、より本格的に福祉実践場面に適用する可能性を検討する報告であった。

福祉プログラム評価において特に重要な評価実践アプローチには、①効果的プログラム開発、②効果的プログラムモデルの形成評価・効果評価、③効果的プログラムモデルの実施・普及研究があると整理した。このうち、山野報告と水上報告は①プログラム開発段階における取り組み、長沼報告は②形成評価・効果評価段階の取り組み、道明報告は3ステージ全体の枠組みを示す取り組みと位

置づけ、それぞれのステージにおける共通のアプローチ法について意見交換を行った。

本セッションには6演題の応募があり（4演題採択）、会場には50人近い参加者を得て、活発な質疑応答が行われた。福祉プログラム評価法の今後の発展の礎になる有意義な討論ができたものとする。